

## 【種苗の販売について】

株式会社 RIFNUM からの ‘MKRI’ の販売は、ポット植えの台木の販売になります。穂木は接ぎ木していませんので、接ぎ木するお客さまは、自ら行うか、果樹苗木業者等に相談して下さい。必要であれば紹介します。ポット植えにしている理由は、カキの根の損傷に弱く、素掘り苗では、植え付け後に枯れることが多いからです。

### ～ ‘下北葉隠’ 樹の比較～

宮崎市下北方町にある史跡景清廟前には地元の渋柿品種 ‘下北葉隠’ が3樹植えられています。台木はすべて挿し木で増やされましたが、写真右側の ‘MKRI’ 台木樹が他の2樹より小さいことがわかります。毎年、多くの果実を実らせ、脚立を使わず収穫できるので、地元の方々にも好評です。すべて6年生樹で、ほぼ無剪定ですが、左側の樹は高くなりすぎたので、途中で切り戻しています。



## カキわい性台木 ‘MKRI’ 苗 の販売

### はじめに

‘MKRI’ は国立大学法人宮崎大学が品種登録（第23898号）したカキ台木品種です。現在、宮崎大学発ベンチャー企業である株式会社 RIFNUM と国立大学法人宮崎大学が共同で、その特性調査を行っています。

挿し木で増殖<sup>※1</sup>していますが、一部、組織培養でも増殖<sup>※2</sup>しています。増殖方法の違いは、カキ樹の成長に影響を及ぼさないことがわかっていますので、区別せず販売しています。



※1 挿し木による大量増殖中の ‘MKRI’

※2 組織培養で大量増殖中の ‘MKRI’



## 【お問い合わせ】

### 【苗木の注文に関するお問い合わせ】

株式会社 RIFNUM (リフナム <https://www.rifnum.com/>) 担当者

内田 恵介

k.uchida@rifnum.co.jp

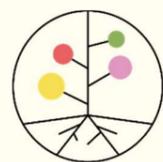
### 【 ‘MKRI’ 台木苗の取り扱いおよびその栽培に関する問い合わせ】

株式会社 RIFNUM 技術顧問

鉄村 琢哉 (博士)

t.tetsumura@rifunm.co.jp

(宮崎大学 農学部 教授)



RIFNUM



収穫直前の ‘MKRI’ 台 ‘平核無’ 樹 (19年生樹)

## 【‘MKR1’ 台木樹の特性】

‘MKR1’台木をカキの台木とすると地上部（穂木）の成長が抑えられ、樹高が低下します。宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター木花フィールド(農場)果樹園内では、20年生以上の「平核無」の樹高が2.2m、「富有」の樹高が2.8mに抑えられています。今まで、接ぎ木したすべての品種、甘柿の「富有」、「太秋」、「早秋」、渋柿の「平核無」、「祇園坊」、「下北葉隠」、「西条」でその効果が認められ、わい化しなかった『MKR1 台木』のカキ樹はありません。そのほか、以下の特性が認められています。

### 特性

- ①（占有面積および樹容積あたりの）収量効率が向上します。狭い栽培面積でたくさんの果実が収穫できます。
- ② 接ぎ木して翌年から花が咲きます。そのままにしておけば、果実の収穫もできますが、苗が衰弱し、いつまでたっても大きな樹になりませんので、接ぎ木して4年間は花（果実）を全部落として下さい。我慢のしどころです。
- ③ ただし、ベランダでの鉢植え栽培では樹を大きくする必要はないので、接ぎ木直後から果実を成らせても大丈夫です。今までのカキ苗と違い、‘MKR1’台木のカキ樹は、若木の時から、美味しい果実を生産することがわかっています。ただし、その場合でも、葉と果実の比率、すなわち葉果比は25（葉）：1（果）あるいはそれ以上に調整して下さい。葉の量が少ないと光合成で作られる糖も少なくなり、果実が小さくなり、そして甘くなりません。

- ④ 毎年、花がたくさん着きます。カキ栽培で問題になっている隔年結果で困ることはほとんどありません。実際には花着きが過剰なので、積極的な摘蕾により、果実肥大を促進する必要があります。それを怠ると、大きな果実の収穫は望めません。



摘蕾前



摘蕾後

- ⑤ カキ栽培で問題となっている梅雨時期の早期落果はほとんどありません。よって、4月～5月の摘蕾で最終着果量に揃えて下さい。梅雨明け後、暑い時期の摘果作業が不要になる上、早めの摘蕾により、果実はさらに大きくなります。樹が小さく、脚立を使わず各種作業ができるので、体への負担は少ないです。

- ⑥ 「富有」や「太秋」では、収穫した果実のビタミンC含量が大幅に増えることがわかっています。また、「富有」では糖度が1～2度高くなることもわかっています。現在、その仕組みを解明中です。



## ～ ‘平核無’ 樹の比較～

‘MKR1’の台木樹の枝は上には伸びず、横方向に伸びるため樹高は変わりません。

一方、実生台木樹の枝は上に伸びていることが分かります。

7年生



12年生



## 【育て方】

水をたっぷり与えて下さい。わい性台木の特徴として、根張りが弱い傾向にありますので、植え付け時の支柱立ては必須です。植え付け後数年間は、夏場の乾燥に注意して枯らさないようにして下さい。施肥は通常栽培と同じです。カキの根は肥料焼けを起こしやすいので、肥料のやり過ぎに注意して下さい。



## 【中間わい性台木苗に注意】

カキ樹がわい化するには、根の部分が『わい性台木』であることが重要です。『わい性台木』を中間台木（部）とした苗が「わい性台木苗」として販売されています。しかし、根が今までの台木と同様、実生なので、その影響が出て、樹が大きくなる可能性があります。現在、試験中ですが、‘MKR1’を中間台木とした場合でもそのことが確認されています。樹が大きく成長していることに気づく頃には、苗購入からすでに5～6年経過しています。‘MKR1’台木樹の特長である「早期落果の抑制」、「初生りからの高品質果実生産」、「高ビタミンC含有甘柿果実」などは、‘MKR1’を中間台木とした場合は認められていません。**必ず、根の部分がわい性台木『MKR1』である苗を植えて、穂木を接ぎ木して理想のわい化栽培行って下さい。**わい化栽培が最も普及しているリンゴにおいて急速に広まっている「新わい化栽培」では、「中間わい性台木苗」は使用しません。それは、「従来のわい化栽培では、M.26やM.9 中間台木に用いた方式がほとんどであったため、樹齢の経過とともに強樹勢、過繁茂、高樹高化が問題となっています。」と『リンゴ新わい化栽培マニュアル』（長野県園芸作物生産振興協議会）に書かれているとおりでからです。